

報告事項

「フォーラム 2010 からの実態調査報告」

NPO 法人文化ボランティアとびうめの会
代表理事 田中 正治

『文化ボランティアとは』

文化芸術に自ら親しむとともに、他の人が楽しむのに役立ったり、
お手伝いするようなボランティア活動 河合隼雄さんの提唱

1. 第1回目のフォーラム

文化ボランティアの分野ごとの“出会い”を体験

- ①読み聞かせ（図書）ボランティア ②ホール・劇場などのボランティア
- ③街巡り（歴史）ガイドボランティア ④美術館・博物館ボランティア
- ⑤「まちづくり」など地域おこしに関わるボランティア

2. 第2回目のフォーラム

文化ボランティアの“分野ごとの現状と問題点”を探った。

1) ボランティアの置かれている現状

- ①自立した団体 ： 読み聞かせ（図書）、街巡り（歴史）ガイドボランティア
- ②自立性・組織化の傾向が希薄 ： ホール・劇場関係のボランティア

2) 自立・組織化したボランティアの抱える問題点

- ①ボランティア募集に苦勞し、世代交代が難しい。
限られた人材で ～できる人が・できる所で・できる事を～ やっている。
- ②ボランティアの資質の向上が求められる。
- ③ボランティア同士のコミュニケーションが常に必要である。
特に、ボランティアの「たまり場」は、ボランティア活動を効果的にする。
- ④活動資金の確保に苦勞する。

3) 見えてきた課題

- ①文化ボランティアについて集約された情報が、県内でほとんど見当たらない。
- ②行政（市町村単位）における活動実態の把握が少ない。
もちろん、良く把握されている市町村はあるが、数が少ない。
- ③個々のボランティアは精一杯活動をしているにもかかわらず、その実態は地域で
あまり評価されていない。
- ④5つの分野の横の連携は、もちろんない。

3. 第3回目フォーラムへ向けた調査内容

1) 調査内容

○アンケート調査（県／県民文化スポーツ課で調査）

対象・・・施設系（ホールなどの文化施設、美術・博物館）

《アンケートの項目》

①ボランティアの有無

②「」の募集実態と活動実態

③施設では使っていないが、周辺で活躍するボランティア団体の情報

○聴き取り調査（とびうめの会）

対象・・・施設系とまちづくり系

電話での直接聴き取り調査

《聴き取りの項目》

①アンケート調査の回答のない施設

②施設（ホール系や博物館系）の活動項目の聴き取り

③ボランティアの活動内容の聴き取り

④ボランティアが存在するまちづくり団体への聴き取り

2) アンケート調査から見えた事柄

①ボランティアの受け皿

それぞれの分野で、全県下を対象とする協議会が存在する。

事務局主導で定期的に活動、ボランティアに関する問題提起の有無は不明。

- ・福岡「子どもの読書」関連団体連絡協議会（社会教育課／県立図書館）
- ・福岡県博物館協議会（社会教育課）
- ・福岡県観光ボランティアガイド連絡協議会（国際経済観光課）
- ・福岡県公立文化施設協議会（県民・文化スポーツ課）
- ・地域づくりネットワーク福岡県協議会（広域地域振興課）

②ボランティアの存在状況（施設へのアンケート結果）

【各施設に関わっているボランティアの状況】

施設区分	ボランティアを使っている施設		施設に属さない団体数 (左欄の内数)
	アンケート結果	聴き取り結果	
ホール系 (71施設)	15施設	11施設	14団体（例：とびうめの会） ※複合施設を含む
博物館系 (66施設)	28施設	2施設	6団体

【地域周辺で活躍しているボランティアの状況】

施設区分	回答数	ボランティアの主な活動分野
ホール系 博物館系	28団体	まちづくり系、観光ガイド系 読み聞かせ（図書）系

※ボランティアの存在・活用率（県内の文化施設で活躍している割合）

40.9%・・・（ホール系26施設+博物館系30施設）／137施設

3) 聴き取り調査から見えた事柄

①各施設（ホール系、博物館系）に存在するボランティアの実態

- ・ボランティアは、施設に所属しているか、市町村の組織（文化連盟、社会福祉協議会、ボランティアセンター等）に属している。
- ・市町村の組織に所属するボランティアは、イベントの度に派遣されて参加する。
- ・自立・組織化されたものは、ほとんど見られない。

一方

- ・ホール系・博物館系それぞれに先進的な活動をしている団体はもちろんあるが、数が少ない。

※「自立」とは： ボランティアが、行政および施設側にたいして、対等あるいは自由に意見を具申できるなど、発言権を持っている場合を言う。

②まちづくり系の分野は多岐にわたり、活動内容はホームページから検索できる。

- ・各団体の活動域は、文化関係から福祉、環境関係と幅広い。
- ・各団体の構成員の意識は、参加の段階から非常に高く、他の分野のボランティアと格段の違いがあり同列で論じ難い。

※構成するメンバーも三つの形態に分かれる。

- まちづくりを仕事としてやっている人（プロの方）
- ボランティアとして参加している人
- 市民の一人として参加している人

4) 今年のフォーラムについて

- ・文化ボランティア5分野のうち、残りの2分野の分科会を設定する。

分科会： 施設系とまちづくり系

- ・文化・芸術にかかわるボランティア活動が「住み易いまちづくり」にどのように「活かされて」いるのか、あるいはこれからどうすれば「活かされる」のか、をテーマとする。

（これまでは、文化ボランティアの現状と問題点をテーマとしてきた）

テーマ： 「文化ボランティア活動を通じたまちづくり」

これによりボランティア活動が地域の問題として捉えられ、ひいては文化ボランティア活動の社会的存在感が高まることも期待したい。

以上